

炭素税を取り入れよう

学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校附属中学校 3年 神下 美海

私たちが日々使っている電気や乗り物、クーラーなどのさまざまな電化製品は、生活のあらゆる面で「二酸化炭素」という温室効果ガスが出ています。この二酸化炭素が地球温暖化の原因であることも社会で近年よく聞くようになりました。また、異常気象や大雨、気温の上昇でも地球温暖化が影響していることを知りました。

こうした問題を改善するために、私は「炭素税」という税金のしくみを日本でもより取り入れていくことを提案します。炭素税とは、二酸化炭素を多く出す石油や石炭のエネルギーにかけられる税金です。授業で海外のめずらしい税について学ぶ機会があり、太らないための税などについて知り、他にも知りたくなり、「炭素税」というものを知りました。

使えば使うほど税金がかかるので、一人一人が二酸化炭素を減らそうというきっかけになると思います。

実際に、カナダやスウェーデンでこの炭素税をすでに導入されていて、スウェーデンでは30%以上の二酸化炭素の軽減に成功しています。一方、日本では、一部で導入されているが、あまり効果を得られていないのが現状です。

では、炭素税を高くすると生活が苦しくなるのでは?という意見もあるでしょう。確かに、電気やガソリン代が少し上がる可能性はあります。しかし、その税収を使って再生可能エネルギーを導入してもらう会社の支援金にしたり、電気自動車や省エネルギーの家電の購入の援助したりすることで、国全体で環境にやさしい社会づくりの方向へと進んでいけると思います。

私たち一人一人も電気の使い方や移動手段の選び方を見直すことになるでしょう。小さな努力かもしれません、一人一人の努力が地球の未来を守ることができる大きな力になると思います。

税金というと、「お金を取りられるもの」というイメージを持つ人が多いです。しかし本来、税金は私たちの暮らしをよりよくするためのものです。道路や学校、防災対策など、多くの面において税金は、私たちの暮らしを支えています。炭素税もその一つであり、環境保護への大きな一歩であると思います。

もし、炭素税を強化すれば、企業は環境にやさしい製品やサービスを開発しやすくなります。

地球温暖化は世界全体での問題であり、どこか一つの国の努力では解決できません。しかし、日本が率先して取り組めば他国にも良い影響を与え、未来へ豊かな地球を残すことにつながると思います。

私は、炭素税が単なる負担ではなく、未来への資金として理解される社会を願っています。環境を守る一歩として、炭素税を活用することが、今の私たちにできる大切な責任だと思います。